

萩にあしあと残そうよ

「空も海も青い！そして暑い！」

令和2年(2020)
9月1日発行
—第12号—
発行：大塚好一



室内にすることが多い割に
しっかり日焼けしています。

「日々の暮らし」

コロナ感染が再び拡大したことを受け、本来は旅行やレジャーを楽しむ八月も、ついつい遠慮がちに過ごすことになってしまいました。そこに連日の猛暑、外出控えに拍車がかかったのは、私だけではなかったでしょう。

仕事面では、八月も原則週一日の出社でした。会社全体の業績は回復途上にあるものの、まだまだ先が明るいとは言えない状況です。私自身も限られた時間でできることをするほかありません。商品の

問い合わせや見積書の依頼など、ちょっとした好機を逃さないよう励みます。

◇

◇

さて、九月に福島県川俣町で開催予定だったフォルクローレの音楽祭が中止となり、代わりに動画出演者を募り配信することになりました。そこで「塩原アンデスの会」も参加することになり、五人のメンバーが集まって収録をしました。そして、その音に合わせて私もケーナを吹いて収録し、同じ映像に仲間入りすることとなりました。

「あしあとノート」

◆山中の涼・小直の雄滝◆

島根県津和野町は、「津和野今昔百景図を歩く」というストーリーで、日本遺産に認定されています。幕末の津和野藩の名所や人々の営みを描いた『津和野百景図』が柱になっています。



殿様も好んだ
滝という

今回は、百景図に描かれた「小直（おただ）の雄滝（おんだき）」と雌滝（めんだき）」を指して山中へ。写真は雄滝ですが、百景図では雌滝として描かれています。下流側にもう一つある滝と、どっちがどっち？という話ですが、まあ詮索はやめにして、岩盤を滑るように流れる水は、涼やかで美しいものでした。

◆郷土史の講演会へ◆

延期になっていた「史都萩を愛する会・例会講演会」が開催されました。事務局は萩博物館で、今年六月に入会手続きをしました。

演題は「戦国時代の阿武郡吉見氏と益田氏」。毛利氏入城以前の萩市域における勢力争いの様子が語られ、これまで聞いていた通説を覆すような内容は、とても興味深く勉強になりました。受け売りですが、後日まとめてみようと思います。

◆海水浴で気分爽快◆

梅雨明けが遅れたので、七月の海水浴は一度きりでしたが、好天続きの八月は四回海で泳ぎました。一人で行くので、遊ぶというよりは運動が目的です。首を出しての平泳ぎながら、腕と肩を大きく動かすように心がけ、時間をかけて泳ぎます。猛暑であることをひととき忘れ、水中から萩の美しい景色を満喫できてこの上ない幸せを感じていました。しかし、お盆を過ぎると人もまばらになり、まだまだ泳げるのにもったいないなあと思うほどでした。



“快水浴場百選”でもある
菊ヶ浜海水浴場

山口県は三方を海に囲まれているため、好環境の海水浴場や穴場の浜辺がたくさんあるそうです。あちこちに行ってみたい気もしますが、菊ヶ浜でも充分満足ですね。

「自由気ままな歌日記」

揺れ動くこと気がかりな
歯を抜きて無きは
無きにて寂しものなり

（七月三十一日）

ヒグラシとコオロギ
ともに長からぬ命の限り
鳴く明け方に

（八月二十日）

健診の結果開いて安堵する
一人暮らしの成績良好

（八月二十四日）

向い風耐えて

トンネル抜け出した先に

輝く明けの明星

ひと朝に二度すれ違う

人あれば笑み交わし合う

旧知のごとく

（八月二十六日）



ランニング後、日本海を
バックに朝日を浴びて
写真を一枚。（8/30）

「ま・な・び」の記録

世界遺産のある町・萩④

『松下村塾』

◆当時の時代背景など

松下村塾の三代目の主宰者である吉田松陰は、もともと萩藩の藩校明倫館の「山鹿流兵学者」でした。このため、日本の海防強化への関心も高く、海外の事情や知識を積極的に吸収するため、書物を読むことはもちろん、国内各地に遊学して人々からも情報を得ていきました。

松陰は、安政元年（一八五四）三月に、ペリーの黒船に乗り込みましたが、密航は失敗に終わります。鎖国という条件下では、欧米列強の技術力について、海外渡航をして学ぶことができません。このため、松陰は理論と実技を兼ね備えた工学教育施設の開設を説くようになります。

やがて、松陰の思想は門下生を中心に引き継がれ、文久三年（一八六三）の、イギリスへ五人の密航留学が実現することになります。

◆松下村塾の沿革

松下村塾は、松陰の叔父である玉木文之進が天保一三年（一八四二）に創始した私塾で、やがて塾名は久保五郎左衛門に引き継がれました。松陰は久保から塾名を継ぎ、三代目の主宰者となります。

松陰は、伊豆下田沖に來航したペリーの黒船での密航に失敗して、萩に送り返されます。そして、野山獄に投じられた後、実家の杉家に幽閉されました。その幽囚室で講義をしたのが、松陰による塾の始まりです。安政三年（一八五六）三月のことでした。



松陰神社境内にある松下村塾

その後、敷地内の小屋を改修して塾舎とし、手狭になると門人らの共同作業で部屋を増築しました。これらが、現存する松下村塾です。

塾は安政六年（一八五九）十月に、松陰が江戸で処刑された以後は、楫取素彦（小田村伊之助）や久坂玄瑞らによって断続的に継承されますが、明治二五年（一八九二）頃に閉鎖されました。

◆世界遺産登録のポイント

松下村塾には「明治日本の産業革命遺産」の他の構成資産と異なり、工場的な要素がありません。また、松陰の教育により、維新の志士や明治新政府の政治家が輩出されたというイメージが強いこともあり、構成資産に含まれていることに、どことなく違和感を持つかもしれません。

しかし、見かたを変えてみると、塾生には産業・経済の分野で活躍した人物も多いことが分かります。松下村塾は『欧米列強に対抗すべく、幕末の日本でいち早く工学教育の必要を提唱し、人材育成の面で工業化に貢献したことを示す事例』としてその価値が評価されています。松陰の思想の先見性と影響力を、あらためて見つめ直す切り口となったともいえるでしょう。

◆松陰の工学教育論とは？

安政五年（一八五八）に著した「学校を論ず、付けたる作場」という論文より。

一に学校を盛んにすること。…身分の高低や学問の深淺を問わず、諸種の学芸に優れた者を募り学生とし、学びたいものを学ばせたいうえで、品性と才能を見極め、実力のある者を登用・昇進させるようにしよう！



吉田松陰誕生地の像
右は金子重輔

二に作業場を興すこと。
…作業場を学校に併設し、技能を持つ者全員が才能を発揮できるよう従事させ、人々の知恵を集めて工夫し、船艦・機械について研究させれば、必ず作る完成するはず！

◆よりみち雑話

松下村塾のある松陰神社の境内を散策してみよう。



親思ふこころに
まさる親ごころ
けふの音づれ何
ときくらん
(家族宛辞世歌)

松陰神社本殿

：松陰を祭神として明治四〇年（一九〇七）に創建。現社殿は昭和三〇年（一九五五）に竣功。

松門神社

：旧社殿を本殿の隣に移築し、松陰の塾生・門下生が祀られている。

吉田松陰幽囚ノ旧宅

：野山獄への投獄後、松陰が謹慎生活をした実家、杉家の旧宅。幽囚室がある。

学びの道

：松陰が遺した言葉を記したポール仕立ての二五基の句碑が参道に並ぶ。

宝物殿至誠館

：松陰の遺品・遺墨を保存・展示している。

吉田松陰歴史館

：松陰の生涯二〇場面を、ろう人形で再現展示。